

◎11月25日(日)開催 第3047回例会
兵庫県山岳連盟同調/第60回六甲合同登山
「六甲山上の歴史散策を楽しむ」を終えて

会長 吉野 宏(岳連/普及委員長)

兵庫県山岳連盟に加盟されている団体間の交流と会員相互の親睦、加えて一般市民にもより山に親しんで頂くことを目的として昭和34年にスタートした六甲合同登山も早や第60回目を迎えた。又本年は岳連が「創立70周年」という祝いの年でもある。



今年のバッジはマツムシソウ

昭和49年11月に行われた第16回目から、毎年一会員として参加していた私も、今は亡きS先輩に相談を受け、創立50周年の第40回目から山行計画に加わり、現在に至っている。確かその時は何れも節目の年であることから、特別山行とした深秋の多紀アルプス登山を企画。バス4台202名の方が参加されたことを記憶に残している。

昭和38年の第5回目からは六甲山地に植生する花々を図案化したバッジが作成されており、参加の記念としているが、これも引き継いで早や13年目となる。自然保護委員長A・Yさんの指導を得て花を選定、アドバイスされながらデザイン化するが、出来上がった製品は果たして皆さんに気に入られているかは疑問である。



仲よしこよし♪・・・保久良支部/Hご夫妻

集合は六甲ケーブル山上駅建物屋上の天覧台。岳連を代表して中西会長よりご挨拶。引き続き、今回の記念バッジである「マツムシソウ」について自然保護委員長から詳しい説明がなされた。コース説明は引率する小生より行い、9:45スタート。穏やかな天候に恵まれてのんびり歩く。



特別講師M氏の説明を熱心に聞く参加者

コースは・・・～ゴルフ場～ブナの植樹道～新池～心経岩～六甲比命神社～雲ヶ岩～仰臥岩～ガーデンテラス～縦走路～六甲記念碑台(ゴール)。*六甲山ビジターセンターにて加藤文太郎の追憶展を見学する・・・である。

新池からは車道を横断し、山荘が点在する方面への道に入る。本コースは恐らく参加された方の多くが訪れておられるだろうと思っていたが、ほとんどの方が初めてとのことであった。



歴史ある六甲山中の岩場について説の説明を聞く

山道へ入るとすぐに心経岩が現れる。般若心経が刻まれた見上げるような巨岩に、初めての方は驚かれたようであった。「その昔、法道仙人に



ヒヨコニューサークルメンバーと一般参加者



布引支部と唐櫃の皆さん



高取・一王山・再度の皆さん



旗振と岳連役員の皆さん

よって心経が刻まれたそうだが、その岩は既に流出したとされ、現在の物は、大正5年に落雷に

よって割れた花崗岩に、般若心経を刻んで再建された」・・・とあった。
ここからの岩場巡りはごく短い距離ではあるが、古びた鉄パイプの手すりや、工事用のあぶなっかしい網階段の結構キツイ登りである。



六甲比命大善神（巨岩/盤座）

左上を見上げると木立の中の急斜面には、びっくりするような巨岩が重なって有り、その右側には小さな神社がある。この神社は六甲比命大善神（この巨岩/盤座）をご神体とする神社であるとのこと。又、ここは北区にある吉祥院多聞寺の奥の院とのことである。



昔と変わらぬ姿の雲ヶ岩

ここからすぐ上に「雲ヶ岩」がある。真っ二つに切られたような面白い形の巨岩で、案内板によれば「法道仙人がこの地で修行中、紫の雲に乗った毘沙門天がこの岩の上に現れたという岩」と説明されている。

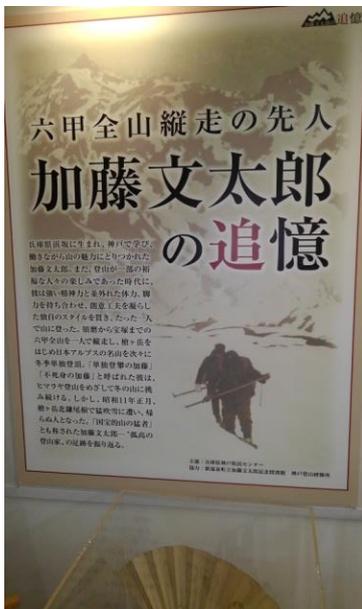
ここまで上がると急に傾斜が緩くなり、すぐ上に畳2畳ほどの平らな岩「仰臥岩」があった。この辺りはいろいろお祭りしている石柱もある。



ゆったりと仰向けに寝れそうな仰臥岩（中央）

ここからすぐに山荘のある場所に飛び出し、六甲山カンツリーハウス中央口の前を通過、昼食場所としたガーデンテラスに到着した。

ゴールの記念碑台には予定時間より少し早く着いたので、六甲山ビジターセンターで行われている「加藤文太郎の追憶展」をゆっくりと見学。主催は兵庫県県民センターで、何かとお世話になっている岳連やヒヨコである。ご相談を受けた以上、私も及ばずながらご協力させて頂いた。



「加藤文太郎の追憶展」

お馴染み「ピーナツ入り煎餅」の完歩賞を受け取られ、元気にお帰りになられる参加者の後姿を見届け、事故が無かったこと、時間に余裕があったこと、そして、少なからずご満足いただ

けた様子に正直ホッとした次第である。そして、ご協力下さったヒヨコ会員の皆様に感謝です。



文太郎の登山用品



文太郎の神戸における表札と手紙類



文富ケルン銘板と藤木九三の詩のレプリカ

天 候 晴れ

参加者 115名（内会員 92名）